

宇都宮市立宝木小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

学力向上改善プランとの関連	
(1)子どもの学ぶ意欲・学習習慣	
○「学校の宿題は自分のためになっている」という質問に対しての肯定割合は、県の平均をやや上回っており、学習することは自分のためになり、宿題は大切だということを理解していることが分かる。また、「学習して身に付けたことは将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」という質問に対しての肯定割合も県の平均をやや上回っていることから、学んだことを日常生活の中に結びつけて考える場面を授業の中に意図的に取り入れたり、授業と関連させながら効果的に宿題を出したりしたことによって改善が図られていると考えられる。	
●「学習に対して、自分から取り組んでいる」や「難しい問題にであうとよりやる気が出る」という質問に対しての肯定割合は、県の平均を大きく下回っている。学習はやった方がよいことは分かっているが、主体的に取り組めていないことが分かる。与えられた宿題だけでなく、自主学習を推進することで、自分から取り組んでいる意識を高めたり、個に応じた家庭学習内容にすることでやる気をより高めたりしていきたい。	
(2)教師の指導力	
○「先生は学習のことについてほめてくれる」という質問に対しての肯定割合は、県の平均をやや上回っている。授業研究会などを通して児童の成長を見る目や温かな言葉かけができるようになったなど教師の指導力が向上してきているためと考えられる。今後も、研究会などを通して、児童に寄り添った指導ができるよう改善を図っていきたい。	
●「授業の中で目標が示されている」と「授業の最後に、振り返る活動をよく行っている」という質問に対しての肯定割合は、県の平均を大きく下回っている。授業の中で何を学ぶのかや今日学んだことを何だったのかを振り返る活動は学習への理解と定着を図る上で大切なことであることから、基本的な板書やノート指導などを教師側がていねいに確実に実施していきたい。	
(3)保護者の理解・協力	
○「家で学校の宿題をしている」という質問に対しての肯定割合は、県の平均とほぼ同じである。家庭が学校と連携し、学習への意識が高まるよう日頃より声掛けや支援をしてくださっている成果と考えられる。	
●「家で、自分で計画を立てて勉強している」や「家で、学校の授業の復習をしている」という質問に対しての肯定割合は、県の平均を大きく下回っている。このことから、宿題以外の家庭学習にはあまり取り組めていないことがわかる。家庭学習カードを活用し授業の復習を推進したり、学年だよりなどで工夫して学習しているノートなどを保護者に紹介し、宿題以外の学習にも取り組めるよう家庭と連携していきたい。	

宇都宮市立宝木小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・子どもの学ぶ意欲を高める指導の工夫	公開授業を定期的実施し、授業を見合い語り合う機会を設けることで、子どもの学ぶ意欲を高める指導の工夫について日々研究、実践している。	「学習に対して自分から進んで取り組んでいる」の質問に対し5年生の児童の肯定割合は15ポイント下回っており、4年生は3ポイント上回っている。学年差が大きく実態に応じた改善が必要である。「先生は学習についてほめてくれる」は、4、5年生ともに県の平均を上回っていることから、授業を見合う中で教師の子どもを見る目が育っている成果と考えられる。
・授業での「目標の共有化」と「振り返り活動の効果的な実施」	掲示物「宝木の振り返り」を活用し、本時の目標に対する「振り返り活動」を授業の中で効果的に実施できるようにしている。	「授業では目標が示されている」の質問に対し、4年生は県の平均を6ポイント上回っているものの5年生は13ポイント下回っている。「振り返る活動をよくしているか」は学年差はあるものの県の平均を大きく下回っていることから、授業サイクルがまだ徹底できていないことがわかる。
・家庭学習の習慣化・継続化 手立てや取り組み方の提示	家庭学習の習慣化が図れるよう、家庭と連携した学習が年2回実施している。また、家庭学習の進め方を配付し、「わかる。できる・覚える」の3ステップでのやり方を明示し効果的に取り組めるようにしている。	「家で宿題をしている」の肯定割合は4、5年生ともに県の平均を上回っている。家庭学習の習慣化が図られている。「学校の授業時間以外に普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」の質問では上位層と下位層で時間のばらつきが見られ、学習時間の二極化がみられる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・学ぶ意欲や学習の定着度の学年差が大きい。また、めあて、学び合い、まとめ、振り返りなど授業サイクルについても差が大きく、実施率が学習意欲や定着率に関係していると考えられる。 ・授業でも家庭学習でも主体的に学ぶ態度は身に付いていない。	・主体的・対話的な授業を目指し、一時間ごとの授業準備、評価時間の確保	・月1回の金曜日5時間授業の放課後を授業準備の時間として確実に確保するとともに、教師が授業づくりや学習準備に使える時間を作り出すことで、質の高い授業を実施していく。